



これからの方向性

平成二七年度（本年四月）から子ども・子育て新三法に基づく新しい制度が施行されます。これに伴い、熊本市でも一四の幼稚園が幼保連携型の認定こども園に移行します。他県の市町村を見ると、定員一五〇名以下の幼稚園が認定子どもへ移行し、定員が多い幼稚園、大学付属の幼稚園、複数を運営する法人の幼稚園は、幼稚園から移行しないケースが多いのですが、熊本市は完全に逆転しているようです。幼保連携型の認定こども園に移行するには、現行の幼稚園を一度廃園し、新たに認定こども園の設立となります。制度



だけでなく、教育、保育内容も一かから見直す必要があると思っております。在園児の保護者には二学期にプリントを配布し、説

H26 第2号
平成27年2月23日(月)
編集者
園長中山義紹

明会も開きましたが、高平幼稚園は、来年度は幼稚園のまま

（私立学校として）で残ります。こども乳児園は0歳〜2歳の認可外保育施設です。しかし、国の方針としては、幼稚園で、乳児対応の設備が整っている施設は幼保連携型認定こども園に移行して待機児童解消の方向に動いて欲しいようです（そう言う割には出来上がった制度は、かなり杜撰なものです）。前にも話したように、保護者の経済的負担から考えた場合は、保育料は現状と移行後では大きく変わる事はありません（就労状況と世帯収入で変わる場合もあります）。しかし、教育・保育内容に関しては、かなり考え抜いて移行しなければ、園児達の将来にとってもマイナスになりかねません。高平幼稚園も、社会の需要や保護者のニーズを考えると、いずれ幼保連携型認定こども園への移行も考えなくてはならない状況になると思います。その時にきちんとした教育・保育施設であるために平成二七年度から明確な方向性をもって幼稚園運営を行いたいと考えます。

教育施設としての充実

幼稚園は、文科省管轄の教育施設つまり学校です。しかし、

幼児期の教育は知識や技術を教え込む事ではなく、1. その子の持っている才能や特性をみつけ、伸ばすような環境を設定する。2. お友達や先生をはじめとする他者とのコミュニケーション能力（いわゆる社会性）を身につけ、更に子ども同士の関係性を発展できるように導く3. 基本的な生活習慣を反復という形で獲得するよう指導する。この三点が重要になります。この時習得したものが、小学校生活はもとより、大人になってから必要とされる能力の基礎を培うことになりま



す。この幼稚園時代に身につけた学力を“問題解決型の学力”と言います。これからの学力として、世界的にも重要視されています。保護者の目から見ると、あれができるようになる、これができる、と言うような技術の習得（英語、音楽、体育や発表会等の出来映え）の方がハッキリした形で確認できるので望ましいように思えるかも知れませんが、しかし「お友達と約束を守って

破草鞋

私は禅坊主だ（毎度言ってるが）。宗教家は決して政治的なものに関わ

てはならない。宗教家の基本であり、良心だ。お釈迦様は、王子として生まれたが、その地位を捨てて出家をし、出家後は自分の国（釈迦族）に一切関わらなかつた。その国が滅ぼされる時も、王子として動く事はなかつた。但し、釈迦国崩壊の時、討伐軍の前に二度立ったそう。偉大なる仏陀を前に敵軍も二度は兵を引いたが、釈迦国は討伐されるべき状況だった為、敵国は再び進軍した。お釈迦様も三度も一度は進軍の前に立ったが、もう関わってはいけなかつた。身を引き、祖国が滅ぶのを黙って見つめたそうである。これが「仏の顔も三度まで」の由来だ。しかし、私は修行が出来ていないので、やはり黙っていられない。このまま、この政権が続くと戦争に突入するよう思えてしょうがない。そうならば、祖国を守るためと徴兵制が始まり、目の前にいる大切な子ども達も兵士として、戦地に駆り出される。私の杞憂である事を心から願う。しかし、どうしてもその考えを打ち消す事ができない。その思いを、口に出さずにはられない。それを防ぐのは、大人である我々一人一人が、自分の生活だけに眼を奪われず、社会の動きや政治をきちんと見つめるほかに方法はあまい。今の被害妄想かも知れない。しかし、今の「子育て支援」の偏った力の入れ方は、「国民皆兵」に繋がるように見える時さえある。総理がヒーロー気取りで勇ましい事を言うのは良いが、国は国民のものであり、総理の私物では無いと言う事を誰かに伝えてはくれまいか。



仲良く遊ぶ「こし辛い事でも最後まで頑張り通す」で自分で作りながら工夫して遊びを開発する

「これらの事を幼児期にしっかり身につける事は、中学や高校、さらには大人になってからの本人の大きな力になります。」

他方、保育先進国であるヨーロッパでは、幼児期の先取り教育(脳力開発等の英才教育)等に多くの時間を費やした場合、小学校高学年から思春期にかけて、非行や引きこもり、薬物依存等の発生率が高くなるというデータもあるそうです。

高平幼稚園ではこれらの事を踏まえて、幼稚園行事の組み方や内容、一人一人の子どもの見る視点や着眼点など、今までの幼稚園での教育を再検証し、より良い教育・保育の形を作り上げる事ができるよう教職員一丸となって動き始めました。又、親の就労等で家庭での教育時間が少なくなってきた

実です(そうならざるを得ない社会状況になっていきます)。その事も踏まえて基本的な生活習慣をきちんと身につけ、心身共に健全な生活を送る事ができるように導くのも大切な教育だと考え、指導計画も見直していきま。子ども達が自由にのびのびと過ごし、大きな声できちんと挨拶をしてお約束も守りながら友達と仲良く遊ぶ。その為にも、先生達がしっかりと眼を持って園児達を見つめ、安定、安心した園生活を送れる幼稚園作りを考え、これから新たに踏み出しました。

「こども乳児園のこれから」

昨年四月に「高平こども乳児園」を開設しました。今の社会情勢を考えると保護者の考えや云々とは別次元で、両親ともに家計を助けるために、外に働きに出ざるを得ない家庭が増えていきます。0〜1歳までは、育児休業制度の浸透で、親と過ごせます。しかし、1歳から2歳までのこどもを預かる施設の数は、働きに出る家庭の増加に追いつかず、いわゆる「待機児童」が増えてきました(3歳からは幼稚園プラス預かり保育があるので、待機児童は少なくなるのですが、兄弟姉妹で別の施設では不便だと言う事で、やはり保育所不足の状態になります)。



学園として、一つ目は上の子どもと下の子が違う施設に通う不便さの解消、二つ目に、乳児期から幼児期まで一貫した考えでの保育、三つ目には、託児は必要ではないが、他の子どもと交流させたいと考える保護者のための支援施設(子育て広場的なもの)という目的で、乳児園を開設しました。最初に計画した時、認定こども園への移行目的で開設した訳ではありません。しかし、幼保連携型認定子ども園に移行できる基準は、充分クリアーできる状態になっています。自身の考え方としては、今まで、やってきた幼稚園教育(学校教育法で言う保育)の重要性を犠牲にしてまで認定こども園に移行したいとは考えていません。むしろ今まで行ってきた幼稚園教育を発展させたいと思っています。

ただ、社会状況から考えて、長時間預かる必要性は増えています。保護者の経済的負担もできる限り軽減すべきです。0〜2歳の子どもにも

幼稚園とは異なる形での教育があるはずですが、そして、それを乳児園で実行し、その内容が幼稚園教育と連係し、一貫したものである事も、子どもにとって大切な事だと思えます。

現時点で、制度の実施は次年度から始まりますが、その内容は、まだ流動的な部分も多く、かなり継ぎ接ぎだらけの状態です。同時に、園としても乳児園から幼稚園への教育・保育の一貫性や整合性、それぞれの教育・保育内容のブラッシュアップの時間も必要です。それを充実して、保護者にも納得できる形に作り上げるために、平成二七年度の一年間、学園を挙げて取り組みます。同時に、認定こども園制度の内容も研究し、移行して保護者のメリットにも繋がるなら、いつでも移行できる状態に持つて行くつもりです(二八年度の移行も視野に入れています)。

保護者の方に御願います。どうか暖かい眼で見守っていただくと共に、「何が御得か?」「何が便利か?」ではなく、「何が我が子に大切か」という大問題を私達と一緒に考えて下さい。園長以下、教職員一丸となり、一つ一つ一所懸命に目標に向かって本年一月より走り始めています。どうぞ、宜敷く御願います。